

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 1月号

2020年1月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：比嘉 浩貴（沖縄赤十字病院）

MSW ニュースは毎月1日
県医療ソーシャルワーカー協会
ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

CONTENTS

研修報告	2~3
在宅医療・介護連携 報告	4~6
自主勉強会報告	6
トピックス	7~8
新入会員紹介	8
部会からのお知らせ	8~9
12月理事運営会議録	10~11
はいさいワーク	12

研修報告

『第 56 回 九州医療ソーシャルワーカー研修会 くもと大会』 参加報告

那覇市立病院 前濱杏美

さった 11/23-11/24 に熊本県にて行われた『第 56 回 九州医療ソーシャルワーカー研修会 くもと大会』にて研究発表をさせていただきました。

初めての県外の学会発表に不安がいっぱいで、学会数日前には、「学会当日 USB を無くす」という悪夢を見るほどでしたが、無事発表を終えることができました。樋口会長をはじめ、MSW 協会の先輩方や職場の先輩・同僚から多くのアドバイスをいただいたことで、自分自身でも納得のいく発表ができたと思っています。アドバイスや励ましをくださった皆様方、本当にありがとうございました。

学会では九州各県の MSW の方々の研究発表や講演、ワークショップなどに参加し、多くの学びを得ることができました。MSWとして日々の業務に励みつつ、所属する医療機関や職能団体・地域に貢献している仲間達の姿に、同じMSWとしての「自覚」と「責任」を実感したと同時に、「喜び」を感じました。丸 2 日間、中身の濃いスケジュールで疲労感もありましたが、それよりも心が充足感で満たされ、明日からまた仕事頑張ろう！という英気を養えた気がします。

前述のとおり、学会参加はとても学びの多く参加して良かったという思いに尽きるのですが、何より学会に参加して良かったと思う理由の一つが熊本のおいしい料理でした。脂がのっているのにさっぱりとした口当たりの「馬刺し」、辛子のピリ辛さが絶妙で歯触りの良い「辛子蓮根」。おいしい料理を食べながら、学会に参加した先輩方とお酒を飲み交わし、日々の仕事の話や、普段は聞けないプライベートの話に花を咲かせ、県外の学会参加の醍醐味を感じました。これはまた行きたい！と思うには十分な経験でした。

さて、次回の九州の医療ソーシャルワーカー学会は宮城県にて行われます。日頃の業務だけでは得られない学び、経験が出来ると同時に、宮城牛・宮崎地鶏が味わえる？学会に皆さんも参加してはいかがでしょうか？



『当事者としての体験を語る

～災害時における MSW の役割～院内外での活動について～』参加報告

大浜第二病院 古見寛子

R1年12月6日(金)15時より、おもろまちメディカルセンターで沖縄県慢性期病院協会 SW 部会と県 MSW 協会合同研修会がありました。講師に熊本県医療ソーシャルワーカー協会会長の土肥尚浩氏を招き、熊本震災の現状をお伝えして頂きました。

熊本地震 平成 28 年4月 14 日【M6.5】前震、15 日【M7.3】本震発生。自宅内の家具が散乱し、職場の病院もスチール棚が倒れ、天井がクーラーと共に剥がれ落ち、窓ガラスが割れ…。講師の土肥氏の語り口は穏やかでありましたが、自身の生命の危機を感じるほどの壮絶な体験をされたということが伝わってきました。個人・ソーシャルワーカー・協会長として、それぞれの視点で語っておられ、震災発生からの動きを追体験することができました。

まず、迷わずに自分と家族の生命を守る行動をとってくださいとの言葉がありました。職場の支援に入る場合でも、自分のけがや家族の心配をしては業務が遂行できないということです。職場へ向かうかの判断は、安全に到着できる経路が確保できるか(例えば、暗い時間帯では動かない等)が基準になります。

職場での行動は、職種にこだわらず“やれることはやる”姿勢が大切とのこと。入院患者、職員や組織の特徴を把握しているというソーシャルワーカーの強みを生かし、家族からの電話対応や退院支援を行ったとのことです。幸いにも、土肥氏の勤務先病院では入院患者は全員無事で、軽症者は自宅へ、病棟建物の損傷のため入院患者を別棟へ移動。自家発電装置燃料確保困難となり、人工呼吸器装着患者 4 名は他県へ DMAT 等でヘリ搬送となったそうです。また、急性期病院から療養や介護施設への退院が普段以上のスピード・数が増えるので、普段からの関係づくりがとても重要とのことでした。

熊本県 MSW 協会の動きとして、ネット上の連絡体制整備や事務局機能移転。避難所の支援は日本医療社会福祉協会と協働し活動開始。行政からの避難所支援は 2 ヶ月程で終わり、最後まで残ったのは MSW 協会と民間団体で、長期にわたり相談窓口があったことは住民にとって心強い存在だったそうです。避難所支援については、引き際の難しさが課題としてあり、団体等して関わるためのゴール設定が必要とのことでした。

大変な中でも、客観的な振り返りや記録(写真)を残す行動をされており、自身の体験からの学びを伝えてくださったことに感謝いたします。

“災害時”のソーシャルワークについて学びたいと思い参加しましたが、研修を受け、これまで気づかなかった視点がみえ、個人としての生活の備え、職場での備え、取り組めることから行動していこうと思いました。☆今日からできること☆いつでも迅速に動けるよう、枕元に携帯電話とメガネを置いて寝よう！まずは日頃から心掛けたいと思いました。

在宅医療・介護連携 報告

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業

『入退院調整に係る基本指針策定に向けた圏域別調整会議(八重山圏域)』

第2回 八重山圏域調整会議 参加報告

かりゆし病院 野原 育子

去った、11月28日(木)沖縄県八重山合同庁舎にて沖縄県高齢者福祉介護課、沖縄県医療ソーシャルワーカー協会の主催による沖縄県入退院支援連携デザイン事業「第2回 八重山圏域調整会議」が開催されました。石垣市地域包括支援センター、各医療機関や介護施設(医師、看護師、MSW、PT)、ケアマネージャー協会、看護協会の代表者、有識者等、参加者は14名でした。

まず、沖縄県高齢者福祉介護課介護企画班の富山裕一郎氏より前回の調整会議で各圏域から出た「入退院調整に係る基本的なルール(基本方針案)」に関する主な指摘(フロア発言、終了後アンケート)をふまえて新たに修正加筆した点について(新旧対象)説明がありました。次に沖縄県医療ソーシャルワーカー協会会長の樋口美智子氏による基本指針(案)の中にある事例についての修正加筆した点について説明がありました。基本指針の作成の趣旨と参考事例紹介の説明が追加され、より分かりやすく充実した内容になったとの意見が多く聞かれました。その後、意見交換のなかでさらにいくつかの指摘や提案もあり、皆が納得のいく内容にするのは本当に大変な作業だと感じました。「入退院に関するご本人・ご家族へのお願い」に加筆された「命しるべ(ぬちしるべ)」というパンフレット(沖縄県・沖縄県医師会作成)について、私はこれまで目にすることがなく、今回初めてネットで検索してみました。とても分かりやすく素晴らしい内容でしたが、関係者はもちろん市民の方々にどれほど周知され活用されているのかが気になりました。今回の基本方針案も策定後どのように周知し、活用していくのが課題だと感じました。

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業

『入退院調整にかかる基本指針策定に向けた圏域別調整会議(宮古圏域)』

第2回 宮古圏域合同調整会議 参加報告

県立宮古病院 奥平藤也

去る12月02日(月)、14時から15時30分まで、宮古島市役所6階会議室において、見出しの会議が開催されましたのでご報告いたします。

今回は14人ほど参加者でした。出席メンバーは、今回も医師の出席はありませんでしたが、当圏域内の3病院と1診療所からの連携担当者の出席と、看護師、ケアマネージャー、リハ専門職協会などの各専門職からの代表者が出席しました。

大まかな流れは、既に実施された他圏域と同様で、主催である県からの本事業の今後のスケジュールについての説明をいただき、「入退院調整に係る基本指針」(案)について具体的な検討をしました。

基本指針(案)についての検討では、文章表現に関することや、盛り込む内容等についての質問が中心となりました。基本指針(案)は、医療から介護への流れにおける連携が含まれていることから、医療機関以外のメンバーからは、「入院患者がいきなり退院させられるケースがあるのではないか」「医療機関でケアマネージャーにどの時点で連携を図っているか」「どの時点でケアマネージャーがいることを把握しているか」「今後の療養に関する説明が不十分なことがあるのではないか」という主旨の質問があり、医療機関での取り組みについて説明をするなど、議論を深めました。

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業

『入退院調整に係る基本指針策定に向けた個別調整会議(中部圏域)』

第2回 中部圏域合同調整会議 参加報告

県立中部病院 喜舎場 利恵

令和元年12月5日19時より中部地区医師会にて、沖縄県入退院支援連携デザイン事業「第2回 中部圏域調整会議」が行われました。

第2回目の会議では、①基本指針策定に向けた今後のスケジュールの説明・確認。②入退院支援連携に係る基本指針案について議題とし意見交換が行われました。現在行われている入退院支援連携デザイン事業では、今年度の目標は1.入退院支援連携基本指針作成研修会、2.圏域別調整会議、3.入退院支援連携PT(骨子作成・最終案決定)となっており、次年度に周知広報の展開を予定しているとの説明がありました。このスケジュールのもと第1回中部圏域調整会議で提示された「沖縄県における入退院支援連携に関する基本指針(案)」に対して行われたアンケートから得られた意見をもとに、細かい言葉の修正などが行われた「基本指針(案)」が再度提示され、どのような部分が訂正・修正になったのか。訂正・修正に至った経緯など説明があり、この「基本指針(案)」を元に意見交換が行われました。その中で参加者より介護関係者の心得の内容にある「介護の事情で病床を使い続ける・・・」という項目に対して、介護関係者だけでなく本人・家族へも認識してもらう必要があるのではないかといった意見など、多職種が参加していることで各職種からの視点でとらえた時の言葉の在り方など活発な意見交換が行われていました。

周知広報に関しては次年度の課題とのことでしたが、策定された「基本指針」に県民の意識をむかせるにはどうしたらいいか。これまでも同じような方針が策定されても周知が図れなかったことを踏まえて検討が必要ではないかなど、広報・普及に対する意見交換も同時に行われていました。

令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業

『入退院調整に係る基本指針策定に向けた圏域別調整会議(北部圏域)』

第2回 北部圏域合同調整会議 参加報告

勝山病院 山城 つきえ

令和元年12月9日、第2回北部圏域調整会議が開催されました。参加者は25名で、9市町村の多職種の参加がありました。沖縄県における入退院支援連携に関する基本指針(案)入退院支援連携に関する基本的なマナーから…基本的な心得など修正前と修正後(案)の説明を受け、各職種からの意見交換が行なわれました。病院関係者の心得で!“口腔ケアを含む摂食嚥下…!”を”早期離床を含んだ排泄支援と口腔ケアを含む…”へ文言の変更希望がありました。また、事例④ではケアマネ側から退院前カンファレンスの時から包括支援センター職員と共にケアマネの参加も加えてほしいとの意見もありました。

離島の参加者からは、在宅以外の老人保健施設や療養型病院等への連携も視野に入れた指針も検討してほしいとの意見があり、沖縄県の入退院支援連携プロジェクトチームで検討となりました。

本人や家族の思いに耳を傾け、入院前の生活状況の把握は具体的にどう対応するのかとの意見もあり、MSWのタイムラインを考慮したアセスメントの必要性、また、ケアマネージャーや在宅介護担当者との連携などMSWの役割は重要であり、コミュニケーションスキルなど総合的なマネジメントが求められると痛感しました。また、沖縄県から、今後の基本指針の周知方法として、ポスターやパンフレットの配布を予定しているとの事でした。

デザイン事業の北部圏域合同調整会議後、北部地区で行われている入退院支援連携対策部会の会議が引き続き行われました。そこで北部版入退院支援手引きの検討として、MSWが介護度が未認定の段階でケアマネへの連携が困難であり、包括支援センター担当とケアマネ間で調整していくことが話し合われています。この入退院支援連携対策部会では、北部版入退院手引きの内容について多職種で検討し、各病院の機能、対象者、手引き運用後の評価方法について話し合いを続けています。北部版入退院手引きは、令和2年度に1000部384箇所配布を予定しています。

自主勉強会報告

令和元年度 第8回 めだかの学校 参加報告

南部医療センター・子ども医療センター 上原佐智

12月11日(水)ハートライフ病院にて「医療機関と生活保護について」という題で、保護課で勤めていた歴がある、沖縄リハビリテーションセンター病院・瑞慶山さん、めだかの学校メンバーでもあるハートライフ病院・兼

次さんを中心に勉強会を行いました。

生活保護受給者には最低限度の生活費が支給され、その中から生活をやりくりしていくというイメージでしたが、今回の勉強会のなかで「一時扶助」について学ぶことができ、被服やおむつ、入院準備金、家具什器など申請をすることで一時的に一定額が支給されることを知り、退院支援の幅が広がる知識になりました。また、今回のテーマにある医療機関と生活保護ということにおいていえば、入院が1ヶ月超えた場合には保護費が入院基準というものになり、水道光熱費食費などの生活費用がかからない分支給額が減るとことや、生活保護課のワーカーが医療機関に求めることとして、入退院時の連絡が欲しい(特に死亡退院の場合)といったこと話されていました。

質疑応答の中では、キーパーソン不在の患者さんなどに対して保護課のワーカーさんの協力がどれくらい得られるのか?といったことなど、それぞれの実践経験の中から疑問に思ったことを聞くことのできるいい機会になりました。また、お互いの質問の中で、急性期病院と慢性期病院という観点からもお互いのに困りごとの違いなども知ることができ、急性期病院で勤務する身として早い段階で金銭面や退院後の不安を見つけ生活保護の申請を行うことで、次につながる病院への社会調整の負担軽減にもなることを聞くことができたので、これからの現場でも意識しながら、退院支援をしていきたいと思いました。

今回お忙しい中、勉強会を開催してくれた兼次さん・瑞慶山さんありがとうございました。

※12月に「めだかのホームルーム」「めだかの放課後」勉強会開催はありませんでした。

トピックス

『課題克服の過程 寄り添う』

沖縄タイムスくらし相談(医療)

2019年12月16日(月)掲載済

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 伊禮智則

「Aさんとの面接」

「なぜお酒をやめないといけないの?」「今は誰とも連絡とっていない。毎日何も楽しくない。ただ一日が早く終わればいい」。Aさんはぼつりぼつりと質問に答える。Aさんの母親からは、最近では体重が落ち、食事を食べても吐いてしまうと聞いていた。元々一本気で真面目な性格だが、今は仕事もできずに部屋にこもり酒浸りの生活だという。「今のAさんは辛そうに見えますが、辛いことを相談できる人はいますか? 今までで充実していると感じたことはありますか?」。質問を続けた。「結局何がしたいの?」とけげんそうなAさん。どのようなライフプランを描いてきたかはわからない。しかし、目標を失い、家族、友人とも距離を置いた閉塞的な今の生活をAさんが望んでいるとは思えなかった。

最後に「あなたが相談できる窓口があることを伝えたかった」と話した。「相談するかわかりませんが、名刺ももらえますか」。Aさんにとってお酒をやめるということは大切なことだ。しかしそれ以上に、Aさんが生きる目的を見だし、自身の抱える課題に気づき、それを乗り越えていくことが重要である。

簡単ではないタイミングもある。Aさんが求めた時に相談ができ、継続されることが大切である。私たちソーシャルワーカーには支援の根拠とする倫理や価値観がある。自らの先入観や偏見を持たず、対象者があるがままに受容するという。必要な情報をわかりやすい表現で提供し、意志を確認すること。その上で自己決定を尊重し、対象者の権利を理解して、活用できるように援助すること。誰もが思い描いた通りの人生を生きて

いくことは難しい。課題を乗り越えていく過程も自分らしさのひとつになる。ソーシャルワーカーは、その過程に寄り添い共に考える。

* 2019 年度、毎月第3月曜日の沖縄タイムス「くらし相談(医療)」欄に掲載されます。

新入会員紹介

沖縄セントラル病院 地域連携室 安里 克侑

はじめまして。沖縄セントラル病院で勤務しています安里克侑と申します。今年の4月に入職し約10ヶ月が経ち、日々先輩方に指導されながら業務を行っています。私は現在、回復期病棟の退院支援を担当しています。急性期病棟などに比べて退院するスピードはゆっくりなので、患者様や家族様と信頼関係を構築できる時間があり、気持ちに寄り添いながら退院支援できるように意識しています。

他にも外来患者様の対応や他の医療機関や地域の方々からの相談等も行っており、自分自身の知識不足を痛感し毎日が勉強になっています。患者様や家族様の気持ちを1番に考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

部会からのお知らせ

1月研修部だより

沖縄県入退院支援連携デザイン事業(多職種研修)

テーマ	「地域包括ケアシステムにおける老人保健施設の役割 ～機能の違いによる病院・地域との協働～」(多職種研修)
日時	2020年1月16日(木) 14:00～17:00(13:30～受付)
会場	まりりんぎのわん 宜野湾マリン支援センター 2階 会議室 大・中
参加費	無料
問い合わせ	樋口 TEL/FAX:098-893-1221(直通) E-mail:m.higuchi@okiu.ac.jp

中堅者研修(概ね5年以上)

テーマ	インテグレイティブ・ショートタイム・トリートメント 統合的短期型支援(ISTT)を学ぶ
日時	2020年2月8日(土) 10:00～16:30(受付9:30～)
会場	ハートライフ病院 2F 講堂
参加費	会員:3,000円 非会員:6,000円
問い合わせ	沖縄協同病院 長

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	1月 休会 2月 事例検討会
日時	2月開催 調整中
会場	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 謝識

※今後、第3水→第2水で実施していく予定

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	調整中
日時	
会場	
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	調整中
日時	
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	第7回沖縄県ソーシャルワーク学会 予演会
日時	2020年1月 調整中
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	沖縄国際大学 樋口

発行 2019年12月16日
研修部 香村真範

12月理事運営議事

2019年12月16日（月）19:00～20:30

場所：県総合福祉センター

【参加者】樋口会長、新垣副会長（司会）、當銘事務局長、長、伊禮、安慶名、香村、大久保、石郷岡（書記）、

【欠席者】又吉副会長、秦、小橋川、高江洲、山城、兼島

1. 各部報告

〔研修部〕香村理事、長理事 ※別紙資料「1月研修部だより」

1) 中堅者研修

日時：2020年2月8日（土）10時～16時30分（受付9:30）

場所：ハートライフ病院 2階講堂

テーマ：「I S T T③」3回シリーズの最終回

2) めだかの学校

2020年1月は休会、2月事例検討会、3月次年度活動計画

3) OGSV

12月は休会、2020年1月 沖縄県ソーシャルワーク学会予演会

4) 慢性期医療協会ソーシャルワーカー部会合同研修報告（香村理事） 12月6日

テーマ：震災について

講師：熊本県MSW協会 土肥会長

〔広報部〕安慶名理事

担当：沖縄赤十字病院 比嘉さん

タイムス記事（第三月曜日掲載） 12月 伊禮、1月 長、2月 大久保、3月 小橋川

はいさいワーク：2件

〔社会活動部〕

なし

〔その他〕

1) 那覇市チャージがんじゅう課 認定グループとのミーティング報告（伊禮理事）

連絡票が精神科、包括ケア病棟でも使われ始めている。

連絡票の使い方の課題を共有した。

1月27日（月）担当者ミーティング

2月か3月 認定グループと当協会員の中間報告と意見交換開催計画

2) 沖縄県医療推進協議会 参加報告（新垣副会長）

社会保障費削減に対して、持続可能な社会保障制度の確立に向けて、適切な財源確保を協議会の総意として国に要望することが決議された。

3) 多職種コンソーシアム実践研修会

日時：2020年1月18日（土）10：30～16：30

場所：県総合福祉センターゆいホール

※沖 PT 協会等他団体との懇親会

2020年1月10日 19:00～八汐荘、新垣副会長、當銘事務局長、安慶名理事が参加

4) 減災プロジェクト委員会教育セミナー 2019年12月21日（土）

5) 県医師会新年会 2020年1月11日（土）→樋口会長出席

6) 聖マリア病院 NASVA*センターの活用率が低いため周知依頼

*交通事故被害者専用 入院病床

7) 那覇市民フォーラム

命しるべ「最期まで地域で自分らしく楽しく生きるコツ」12月22日（日）琉球新報ホール

8) 改めて学ぶハンセン病問題 2020年1月25日（土）県立図書館3階ホール

[事務局]

- ・日本医療ソーシャルワーク学会 2021年共催の打診あり。
→他の事業計画との兼ね合いで今回はお断りする。
- ・会員動向 なし

2. 入退院支援連携デザイン事業

沖縄県入退院支援連携デザイン事業 <多職種研修>

「地域包括ケアシステムにおける老人保健施設の役割」

～機能の違いによる病院・地域との協働～

日時：2020（令和2年）1月16日（木）14：00～17：00

場所：まりりんぎのわん 宜野湾マリン支援センター 2階 会議室（大・中）

受付を当協会と老健協会別々にする。

<今後の研修予定>

テーマ：バルネラビリティへの支援 講師：玉木千賀子氏（沖縄大学）

日時：2020年2月26日（水）

場所：県総合福祉センター

次回理事会 2020年1月20日（月）19：00～ 司会：當銘 書記：香村 連絡：石郷岡

はいさいワーク

事業所名	地方独立行政法人 那覇市立病院
応募資格	1、社会福祉士資格保持者 2、協調性があり、チームでの業務に貢献できる者 3、Excel、Word 等のパソコン操作ができる者
雇用形態	医療ソーシャルワーカー（フルタイム非常勤）
勤務時間	月～金 8:30～17:15 休日:土・日・祝祭日 ※早出出勤あり
担当者	那覇市立病院 総合相談センター 仲宗根
連絡先	〒902-8511 那覇市古島 2-31-1 TEL:098-884-5111(内線:127 または 8428) 電話で面接日程調整行います。履歴書と資格免許の写しを担当宛に郵送してください。

事業所名	地方独立行政法人 那覇市立病院
応募資格	4、社会福祉士資格保持者 5、協調性があり、チームでの業務に貢献できる者 6、Excel、Word 等のパソコン操作ができる者
雇用形態	患者相談窓口 社会福祉士（フルタイム非常勤）
勤務時間	月～金 8:30～17:15 休日:土・日・祝祭日
担当者	那覇市立病院 総合相談センター 仲宗根
連絡先	〒902-8511 那覇市古島 2-31-1 TEL:098-884-5111(内線:127 または 8428) 電話で面接日程調整行います。履歴書と資格免許の写しを担当宛に郵送してください。

.....

☆ 編集後記 ☆

新年明けましておめでとうございます。令和2年の幕開けです。
お忙しい中、原稿を快く引き受けてくださった方々、ありがとうございました！
寒い季節はMSWにとって退院支援が盛り上がる時期ですね。
より良い支援ができるように前向きに楽しんで参りましょう！

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会ホームページ
<http://www.msw-oaswhs.jp/>